

平成 23 年度

中沢遺跡 現地説明会資料

—草津市西渋川 2 丁目ほか—

平成 24 年 3 月 4 日（日）

調査主体：草津市教育委員会

調査機関：財団法人滋賀県文化財保護協会

1. はじめに

財団法人滋賀県文化財保護協会では、パナホーム株式会社およびM I D都市開発株式会社と草津市教育委員会からの依頼を受け、平成 23 年 11 月より中沢（なかざわ）遺跡の発掘調査を実施しています。このたび、調査がほぼ終了しましたので、その成果をご説明いたします。

中沢遺跡は、葉山川が形成した扇状地の扇端部にあたる、草津市西渋川から栗東市中沢にかけて広がります。昭和 57 年（1982）から、草津市教育委員会と栗東市教育委員会などによる二十数回の発掘調査が行われています。これらの調査では、弥生時代～古墳時代を中心とする遺構（竪穴住居や掘立柱建物・方形周溝墓・古墳・溝など）や遺物が多数見つかり、集落跡の存在が明らかになりました。

今回の発掘調査は、新たに県立短期大学跡地における宅地開発工事に伴って実施するもので、調査面積は 2,600 m²です。草津市域における中沢遺跡の発掘調査では、これまでで最も広い面積となります。

2. 発掘調査の成果

1) 基本層序

厚さ約 0.8mの盛土層と厚さ約 0.2mの旧水田の床土層を除去したところに各遺構があります。遺構を検出した高さは標高 92.0～92.4mで、南東から北西に向かって緩く傾斜しています。

2) 古墳時代のおもな遺構と遺物

河川 SR01 T2 調査区で約 22m分、T4 調査区から T6 調査区にかけて約 50m分を検出しました。トレンチの間をつなぐ約 50m分は草津市教育委員会の調査地で見つかりました。川幅は 4.5～5.0m、深さは最大で 1.4mあり、南東から北西方向へ屈曲しながら流れていました。T5・T6 調査区では、後述する落込の下で見つかりました。砂が堆積した層からは土師器と木製品が大量に出土しています。木製品は板材や棒状の木製品が大半ですが、その中に梯子（はしご）や槽（そう）・棟飾りなどの製品も多数あります。出土した土師器の年代から、古墳時代前期（4 世紀）に埋まったと考えられます。T2 調査区では、南側で同時期の土器が置かれた土坑も見つかりました。

溝 S1 T3 調査区から T5 調査区にかけて約 65m分が見つかりました。溝幅は 1.6～2.4 m、深さ最大 0.6mを測り、南東から北西方向へ屈曲しながら流れていました。堆積していた土砂を観察すると、少なくとも 1 回は掘り直していることがわかりました。遺物は土師器が少量出土しています。その年代から、古墳時代前期に埋まったと考えられます。このほかにも、同時期の溝が T4・T5 調査区で 3 条見つっています。これらの溝は、水田へ水を供給するための用水路となる可能性があります。

柱穴 T3 調査区で多数見つかりましたが、規則的な配列が確認できたのはごく一部です。

落込 T5・T6 調査区で見つかりました。最も上に堆積した粘土から古墳時代中期の須恵器が見つまっていることから、その頃に埋まった湿地と考えられます。落込の粘土を除去すると、その下に堆積する砂の層から古墳時代前期の土器や木製品などが大量に見つかりました。これは、前述の河川 SR01 などの河川が複雑に重なり合って、最終的に湿地になったようです。

3) 中世のおもな遺構と遺物

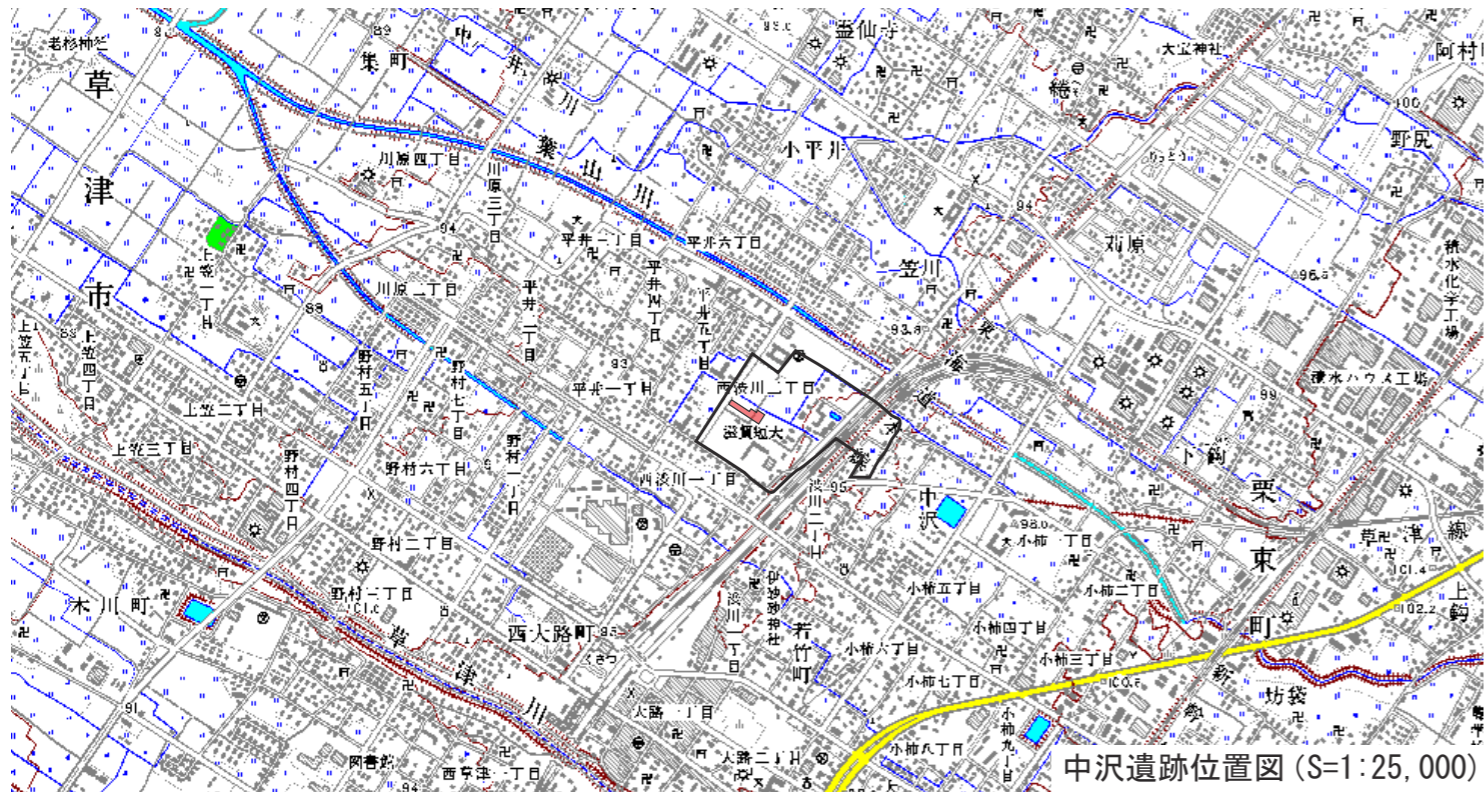
土坑 S2 T5 調査区で検出しました。灰色粘土を含む土砂が堆積していました。一部は壊されてはいますが、平面形はほぼ楕円形になり、長軸は 7.0mを測り、短軸は 6.0mと推定されます。断面形は漏斗状で、下に行くほどすぼまっていき、深さ 2.4mあります。用途は水溜などが考えられます。遺物には陶器の播鉢（すりばち）や甕、白磁の碗などがあり、これらの遺物の年代から、15～16 世紀に埋まったと考えられます。

掘立柱建物と区画溝 T4 調査区で検出しました。桁行（けたゆき）2 間×梁行（はりゆき）2 間の建物で、4.2m×3.8mの約 16 m²の規模を持ち、柱間は桁行約 2.1m・梁行約 1.9mを測ります。桁行の方位は南北から約 30° 東に振ります。9 基の柱穴の平面形は円形のものが多く、直径 0.3m前後、深さ 0.2m前後を測ります。区画溝とした遺構は掘立柱建物の北西側と南西側に位置し、主軸が掘立柱建物の桁行・梁行とそれぞれほぼ揃います。深さはともに 0.1m前後で、北西側の溝は長さ 5.1m、北東側の溝は長さ 8.3mを測ります。いずれの柱穴・溝からも遺物は出土していませんが、埋まっていた土は土坑 S2 と同じ灰色粘土であり、同時期と推測されます。T3 調査区で多数検出した耕作溝も同様の灰色粘土が埋まっていた。

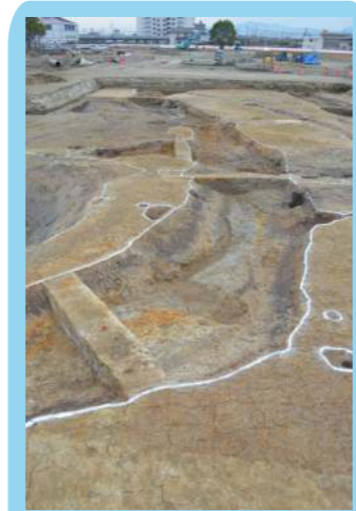
4. まとめ

今回の発掘調査で見つかった遺構のほとんどは古墳時代前期です。そのほかに中世のものも少数見られます。どちらも、これまでの発掘調査により知られていた中沢遺跡が営まれていた時代に含まれます。古墳時代の遺構については、確実な住居跡とできる遺構は見つかってはいませんが、集落内にあたると思われる。

今後、今回見つかりました遺構や遺物の整理調査を進めていくなかで、さらに多くの成果を得られることと思います。今後とも、文化財調査へのご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひします。



中沢遺跡位置図 (S=1:25,000)



古墳時代前期の溝 S1 (北西から)

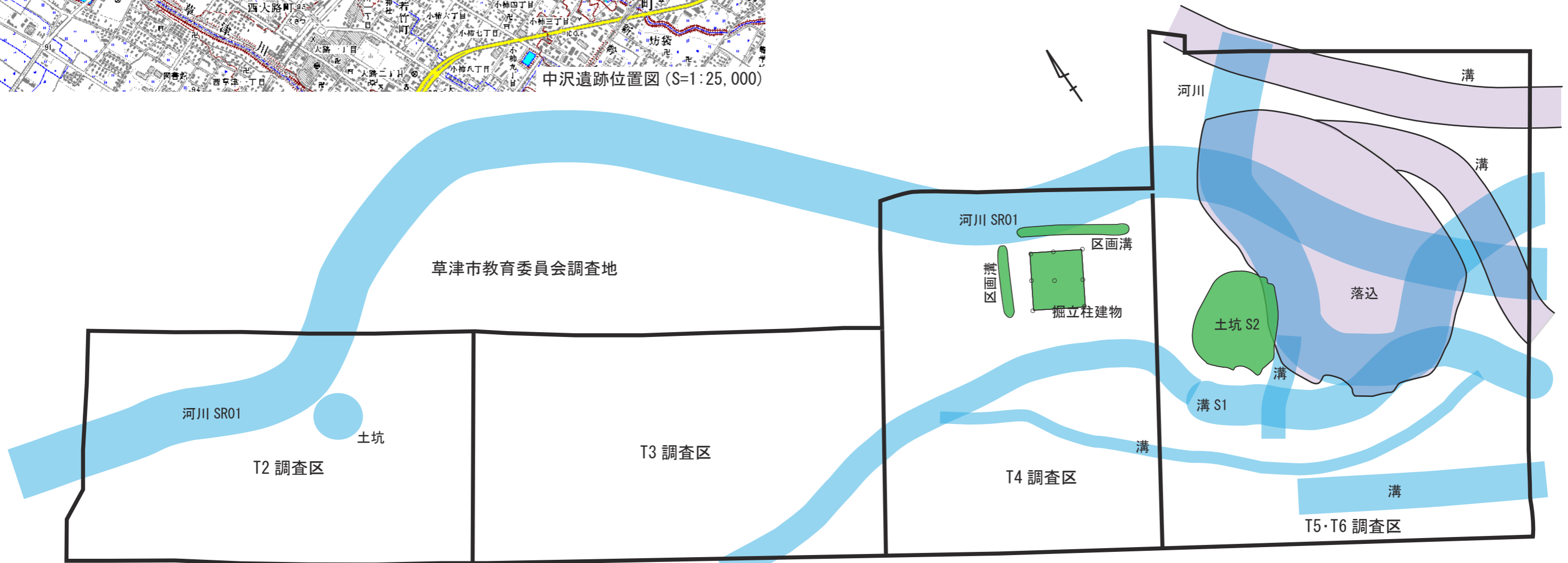


中世の掘立柱建物と区画溝 (南東から)



古墳時代中期の溝 (南東から)

中沢遺跡 遺構平面図 (S=1:300)



河川 SR01 (北東から)



河川 SR01 遺物出土状況 (北から)



河川 SR01 遺物出土状況 (北から)



古墳時代土坑遺物出土状況 (北から)



中世の土坑 S2 (北から)